

令和 4 年度教育委員会点検評価

[評価対象期間]

令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

加西市教育委員会

加西市教育委員会評価委員会

○ 教育委員会評価にかかる難易度基準の設定

難易度	難易度設定の基準
A	加西市独自に取り組むもので、達成が困難なもの
	国、県の基準を超えて加西市独自の基準で取り組んだもの
	定額交付金制度等における市費の予算措置の獲得と事業推進にかかるもの
	その他、障壁が大きく、客観的に達成困難と思えるもの
B	以前から取り組んでいるもので、達成に努力を要するもの
	国、県の基準で行うもので、達成が困難なもの
	要綱に則るが、市の推進方向、学校の実態に沿う取組で、達成が困難なもの
	その他、客観的に達成に大きな努力を要するもの
C	国、県の基準で行うもので、達成可能なもの
	以前から取り組んでいて、達成可能なもの
	その他、客観的に達成可能と思えるもの

○教育委員会評価にかかる達成度基準の設定

達成度	達成基準
4	目標を大きく超えて達成
3	目標を超えて達成
2	ほぼ目標を達成
1	目標を下回る

○ 評価基準の表示方法

評価基準の表示については、横軸：難易度、縦軸：達成度として塗潰して表示する。

難易度は高い順に A～C の 3 段階、達成度は高い順に 4～1 の 4 段階で評価する。

右の例示は難易度 B、達成度 3。

(達成度)

4			
3			
2			
1			

C B A

(難易度)

令和4年度分 加西市教育委員会点検評価 総括表

番号	所属課	取組項目	評価		頁
			難易度	達成度	
1	こども未来課	家庭や関係機関の協力の下、保健的で安全な保育環境を確保します。 異年齢児との交流をはじめ、多様な感情体験の工夫により人とのかかわる力を育成します。	B	2	2
2	こども未来課	0歳児から2歳児の受け皿となる小規模保育や一時預かり、病児・病後児保育、地域子育て支援事業などの事業を充実させます。	B	2	3
3	こども未来課	放課後に小学校の余裕教室や敷地内の専用棟等を活用して適切な遊びや生活の場を提供します。	B	2	4
4	学校教育課	探究的な学び（STEAM教育）の積極的な推進により、主体的・対話的で深い学びを実現し、「確かな学力」を育成します。	B	2	5
5	学校教育課	「特別の教科 道徳」を要とした道徳教育の充実に努め、人間形成の基盤となる自尊心・自律性・道徳性など「豊かな心」を育てます。	B	1	6
6	学校教育課	体力・運動能力の改善や向上などによって、生涯を通して健康で安全な生活を送るために基礎を養い、「健やかな体」を育てます。	B	2	7
7	教育総務課	学校給食を通した食育の推進などによって、生涯を通して健康で安全な生活を送るための基礎を養い、「健やかな体」を育てます。	B	2	8
8	教育総務課	児童生徒が安心して学べる学校環境を整備し、地域の特性に応じた魅力ある学校づくりを推進します。	A	2	9
9	総合教育センター	「兵庫県教員資質向上指標」に基づいた研修や教職員のニーズに応じた講座、新しい教育を切り拓く講座を開設し、教職員としての資質能力の向上、研修の充実に努めます。 教育図書を拡充し、利用促進を図ります。	B	3	10
10	総合教育センター	子どもの内面理解に基づく生徒指導を充実し、児童生徒一人一人の特性や状況に合った対応と支援を行います。	A	2	11
11	総合教育センター	「加西市小中連携教育推進ガイドブック」に基づき、系統性のある指導を目指した連携を強化し、「中1ギャップ」の軽減を図ります。 地域全体で学校の運営や子どもの成長を支えていく「地域とともにある学校」を推進します。	B	2	12
12	生涯学習課	「人生100年時代」を念頭に、公民館主催講座やかしの木学園などで、多岐に渡ったテーマの講座を開催します。	B	3	13
13	生涯学習課	「公民館まちづくり出前講座」を推進し、学習成果を発表できる場、学んだことを地域に還元する場となるようコーディネートに努めます。	B	1	14
14	生涯学習課	歴史文化遺産を活かした地域の活動への支援を拡充します。	B	3	15
15	図書館	市立図書館と学校図書館とが連携し、子ども達の読書への関心を高め、読書活動の推進を図ります。 こども園や学校への図書託送サービスや図書相談を行い、それぞれの読書環境を整えるお手伝いをします。	B	3	16
16	図書館	図書資料及びサービスの充実を図り、幼児から大人までの多様な世代に向けた読書喚起への取組に努めます。 電子図書館システムを導入し、ICTを活用した電子図書利用サービスを開始します。 県内の公共図書館と連携し、蔵書の相互貸借を実施します。	B	1	17

令和4年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	1	所属課	こども未来課				
基本方針	幼児期の子育て支援の充実						
基本施策	「生きる力」の基礎を育む幼児期の教育・保育を充実します。						
取組項目							
家庭や関係機関の協力の下、保健的で安全な保育環境を確保します。 異年齢児との交流をはじめ、多様な感情体験の工夫により人とのかかわる力を育成します。							
取組内容							
・幼児が夢中で遊び込める環境を整える。(遊びを中心とした保育環境づくり) ・特別支援教育の拡大を図る。 ・幼小連携・接続に向けた基盤づくりを行う。							
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
【子どもたちが遊びながら学ぶ環境づくりにおいて、保護者から見た満足度の割合】→こども園評価において「園は子どもたちが遊んだり生活したりするのにふさわしい環境となっているか」 →「よくあてはまる」と回答した割合 (%) 目標、実績ともにアンケート結果	目 標	65	65	67	70	75	80
	実 績	65	62	65			
	達成率	100%	95%	97%			
【保育の質の確保・向上より、特別支援教育に焦点をおいた園内研修会の開催回数】(回) 目標：R2～R3 公立こども園5園×3回 R7 公私立こども園11園×3回 実績：全園実施回数	目 標	15	15	15	18	24	33
	実 績	11	13	28			
	達成率	73%	87%	187%			
【小学校との連携促進の充実に向けた交流活動や合同研修会等の回数】 目標：R2～R3 公立こども園5園×2回 R7 公私立こども園11園×2回 実績：全園実施回数	目 標	10	10	11	15	18	22
	実 績	5	11	12			
	達成率	50%	110%	109%			
主な取組の成果							
・園内研修会で専門の講師に指導を仰いだことで、人的・物的環境における職員の意識の向上が見られ、園児一人一人の興味・関心に応じた環境設定を心がけるとともに、より工夫するようになった。 ・各園、特別支援コーディネーターを中心に特別支援体制を確立し、個々の特性を踏まえたうえで支援内容の検討を重ねた。 ・幼小交流の回数について、公立園は増加した。							
達成度の説明・理由					評価		
・療育関係機関による園訪問で専門的なアドバイスを受けたことにより、園児のかかわり方や有効な環境の在り方についてのスキルアップにつながった。よって、達成度について「ほぼ目標を達成した」とした。							
今後の課題							
・園内での研修の機会が増え、遊びの環境構成や特別支援の質が向上してきている。 しかし、研修の場が園内にとどまっているため、園外研修への参加の勧奨を行いたい。 ・引き続き各小学校における幼小交流に向けた働きかけを行う。公私立園で、交流回数の差が見られるため、私立園に向けて交流の意義の説明を行い、小1プロブレムの解消やスムーズな教育活動の移行を目指し、相互理解を深めていく。							
教育委員 評価コメント							
・【子供たちが遊びながら学ぶ環境づくりにおいて、保護者から見た満足度の割合】について、「よくあてはまる」が65%であるが、後の35%（約1/3）は、何がふさわしい環境でないと感じているのかの原因を知り、今後の課題の内容へつなげてほしい。 ・【小学校との連携促進の充実に向けた交流活動や合同研修会等の回数】について、R4年度は、1回だけ増加している。コロナも第5類になり、R5年度は、交流が活発になる（特に私立園と）事を願う。							

令和4年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	2	所属課	こども未来課				
基本方針	幼児期の子育て支援の充実						
基本施策	子育て家庭を支える子育て環境を充実します。						
取組項目							
0歳児から2歳児の受け皿となる小規模保育や一時預かり、病児・病後児保育、地域子育て支援事業などの事業を充実させます。							
取組内容							
・入園前の子どもがいる保護者に、親子のふれあいや親同士の交流、育児の不安や悩みを相談する場を提供する。 ・アンケートを実施し、常に保護者のニーズに合ったひろば運営を実施する。 ・認定こども園や小規模保育所等を整備、推進する。 ・病気の児童を一時的に保育するための病児・病後児保育事業を実施する。							
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
子育てひろば利用者に対する満足度調査(%) ひろば参加者へのアンケートを実施することにより、親子の交流の場、気軽に子育て等に関する相談・援助を実施する場として機能しているのかを数値化する。 質問項目に対して、「満足」、「やや満足」と回答した割合	目 標	—	—	80	85	90	90
	実 績	—	—	※212人/※273人			
	達成率	—	—	78%			
毎年3月1日現在のこども園等入所申込者に対する入所者の割合(%) 入所率を高めることにより、育児支援を図る。 (なお、育児休業延長のための申込については、申込者から除外する。)	目 標	—	—	100	100	100	100
	実 績	324人/376人	332人/382人	379人/407人			
	達成率	86%	87%	93%			
病児・病後児保育事業の年間新規登録者数(人) 家庭での保育が困難な保護者に代わって保育・看護し、仕事と子育ての両立を支援することを目的とする病児・病後児保育事業について、事業のPRをすることにより、安心して利用できる環境を整える。なお、利用には事前登録が必要であり、事前登録時に必要事項を説明する。	目 標	70	70	70	70	70	70
	実 績	76	66	74			
	達成率	109%	94%	106%			
主な取組の成果							
・子育てひろばについては、SNSでの情報発信やパンフレットを配布することにより、周知に努めた。 ・小規模保育施設の開設等を実施し、待機児童の解消を図った。 ・病児保育についても、パンフレットの配布や、入所申請時に配布する案内にも記載し、周知を図った。							
達成度の説明・理由					評価		
・子育てひろばについては、施設面への老朽化に対する項目の評価が低く、職員等への評価については、「満足」や「やや満足」との回答が多かった。 ・令和4年4月より2園の小規模保育所開設に伴い、受入数増に繋がったが、全国児の受入れには至っていない。また、0歳児からの保育料無料化により市外からの問合せが増加しており、保育基準を満たす保育士数の確保が必要である。 ・病児保育については、情報発信により、問い合わせ・登録が増えた。 以上を総合的に勘案し、「ほぼ目標を達成」とした。							
今後の課題							
・子育てひろばや病児保育について、さらに市のSNSや広報誌によるPRが必要。 ・保育士確保のため「就職フェア」を開催し、大学、専門学校との訪問、教授等と直接交渉をすることで、リアルな学生の希望・動向等情報収集を行い、それを定着支援一時金や家賃補助等様々な補助金の新設・拡充へと繋げた。更なる需要増に対応するため、人材確保対策事業の利用も検討していく。							
教育委員 評価コメント							
保育料無料化、給食費無料化等により、子育て支援が充実して来て、素晴らしいと思う。評価は高いと思う。それに伴う保育士数が確保出来ていない事がマイナス点である。昨年も教授との直接交渉を課題とされているが、その結果どのようなものを得たのか。							

令和4年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	3	所属課	こども未来課				
基本方針	幼児期の子育て支援の充実						
基本施策	子育て家庭を支える子育て環境を充実します。						
取組項目							
放課後に小学校の余裕教室や敷地内の専用棟等を活用して適切な遊びや生活の場を提供します。							
取組内容							
・放課後や土曜日、長期休業中の児童健全育成の場となる学童保育事業の充実を図るため、アンケート実施等により、ハード面での環境整備や夏季学童の受入拡大を進めるとともに、ソフト面でも研修等による職員の資質向上に努める。							
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
【子どもたちが放課後に過ごす環境づくりにおいて、保護者から見た満足度の割合】→入園者アンケートにおいて「学童保育園は子どもたちが放課後に遊んだり生活したりするのにふさわしい環境となっているか」→「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合（％） 目標、実績ともにアンケート結果	目 標	－	－	80	85	90	90
	実 績	－	－	92%			
	達成率	－	－	115%			
毎年4月1日入園率（入園者数/希望者数）（％） ・ニーズの高い年度当初の申込み者数に対する入園者数を数値化することにより育児支援の向上を図る。	目 標	100	100	100	100	100	100
	実 績	368/403	398/422	421/448			
	達成率	91%	94%	94%			
【職員資質向上研修の受講回数（回/人）】 ・支援員の資質向上のため、園相互研修会及び市主催の特別支援研修の受講回数を把握する。	目 標	－	－	3	4	4	5
	実 績	－	－	3.4			
	達成率	－	－	113%			
主な取組の成果							
・低学年児童は、例年の運用定員を弾力的に適用して受入れに努めた。結果的に年度当初懸念された北条地区での低学年待機児童は回避できた。 ・今年度は経験の浅い職員が多く、新任の研修受講者が多数あった。その他支援員においても、参加勧奨により、県主催研修等へ例年よりも受講者が増加した。							
達成度の説明・理由					評価		
・今年度は経験の浅い職員が多く、新任の研修受講者が多数あった。その他支援員においても、参加勧奨により、県主催研修等へ例年よりも受講者が増加した。 ・高学年児童や申込時期により、一部低学年にも保留という結果が生じた。							
今後の課題							
・泉学童保育園施設の建替えにより、定員を30人から60人に拡大する。 ・今後は児童の出生数から勘案して定員拡大は見込づらく、保留が生じている施設では、規模拡大や小学校余裕教室の活用も困難なため、まずは支援員確保により可能な限り希望児童の受け入れに努めたい。							
教育委員 評価コメント							
・出生数は減少しているが、共働き等で今後の学童保育の見込みが増える可能性もないわけではない。核家族化による利用者の定員数増加も視野に入れておいてほしい。 ・研修に参加する受験者も増加し、いろいろと情報共有できたと思う。これから希望する学童をすべて受け入れるように、支援員の確保ができるように案を出して努めてほしい。							

令和4年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	4	所属課	学校教育課					
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実							
基本施策	学ぶ喜びを知り、自ら学ぶ意欲と確かな力を育成します。							
取組項目								
探究的な学び（STEAM教育）の積極的な推進により、主体的・対話的で深い学びを実現し、「確かな学力」を育成します。								
取組内容								
・かさい学力向上プロジェクト事業によって、児童生徒の学力向上を図る。 ・「学校づくり×STEAM教育推進事業」を通して、教科学習や総合的な学習の時間において、加西STEAMを推進する。 ・GIGAスクール構想によるICT教育を推進する。								
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	
全国学力・学習状況調査において、全国より高い平均正答率を示した教科数の割合（％） →目標：各年度の設定数値 実績：全国平均を上回った教科数の割合	目 標	—	50	50	55	55	60	
	実 績	—	25	33				
	達成率	—	50%	66%				
全国学力・学習状況調査の質問紙調査項目 「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と肯定的な回答をした割合（％） →目標：全国平均 実績：加西市平均 ※セル → 左：小6、右：中3	目 標	—	78 、 81	77 、 79	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
	実 績	—	81 、 80	81 、 77				
	達成率	—	104% 99%	105% 97%				
全国学力・学習状況調査の質問紙調査項目 「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」と回答をした割合（％） →目標：全国平均 実績：加西市平均 ※セル → 左：小6、右：中3	目 標	—	95 、 93	94 、 93	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
	実 績	—	97 、 95	97 、 93				
	達成率	—	102% 102%	103% 100%				
主な取組の成果								
・「学校づくり×STEAM推進事業」により、各校の実態に応じて人材育成の視点を取り入れた教育活動を各校で工夫を凝らして実施した。 ・加西市が育成を目指すChallenge、Create、Collaborate（3C）の資質・能力を明確にする教育活動の推進が進み、徐々にではあるが児童生徒が「探究し知る学び」から「発想し創る学び」へのシフトが確実に進んでいる。 ・教職員1人1台端末の活用により、児童生徒の主体的・対話的な学びの実現を着実に進めることができた。 ・学校の実情に応じたスクールサポーターや地域人材の活用により、各校の特色を活かした児童生徒の学びを進めることができた。								
達成度の説明・理由					評価			
・3C次世代型人材育成の視点での加西STEAMも2年目となり、総合的な学習の時間や各教科の学習活動への位置づけが進んだ。教職員が自校の児童生徒の実態を把握し、教育者視点から学習者視点への学習観の転換を図ることを主眼とした取組を推進することができたため、教職員の意識達成度については「ほぼ目標を達成した」とした。								
今後の課題								
・教職員が学習観を転換しながら、これまで以上に3Cの資質・能力を意識した教育活動・授業改善に向かう研修等の充実を図る。 ・児童生徒が自ら3Cの資質・能力を振り返り、自らの学びを調整しながら3Cの資質・能力をさらに身につけることができる学習を工夫する。 ・児童生徒の個別最適化された学びの推進に向けた事業予算の確保や支援員等人的環境の整備を行う。								
教育委員 評価コメント								
「課題解決に向けて、自分から取り組んでいる」と肯定的な回答をした中学生の割合が全国平均をやや下回っているが、「学習の中でICT機器を使うのは勉強に役立つと思う」と回答した児童生徒は小中ともに全国平均を上回っている。児童生徒1人1端末の整備やサポーター等の人材配置もなされ、児童生徒の主体的・対話的な学びが着実に進んでいることはおおいに評価できる。								

令和4年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	5	所属課	学校教育課					
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実							
基本施策	学ぶ喜びを知り、自ら学ぶ意欲と確かな力を育成します。							
取組項目								
「特別の教科 道徳」を要とした道徳教育の充実に努め、人間形成の基盤となる自尊心・自律性・道徳性など「豊かな心」を育てます。								
取組内容								
・「深い学びをめざす」道徳科の授業を要として、道徳教育の充実を図る。 ・心の教育の充実を図るため、兵庫型「体験教育」を推進する。 ・社会参画に必要な態度や能力を育てるために、キャリア教育を推進する。								
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	
全国学力・学習状況調査の質問紙調査項目 「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と肯定的な回答をした割合（％） →目標：全国平均 実績：加西市平均 ※セル → 左：小6、右：中3	目 標	—	80 、 86	81 、 86	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
	実 績	—	79 、 66	79 、 66				
	達成率	—	99% 77%	98% 77%				
全国学力・学習状況調査の質問紙調査項目 「自分には良いところがあると思う」と肯定的な回答をした割合（％） →目標：全国平均 実績：加西市平均 ※セル → 左：小6、右：中3	目 標	—	77 、 76	79 、 79	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
	実 績	—	82 、 83	80 、 79				
	達成率	—	106% 109%	101% 100%				
全国学力・学習状況調査の質問紙調査項目 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と肯定的な回答をした割合（％） →目標：全国平均 実績：加西市平均 ※セル → 左：小6、右：中3	目 標	—	52 、 44	51 、 41	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
	実 績	—	57 、 37	47 、 33				
	達成率	—	110% 84%	92% 80%				
主な取組の成果								
・播磨東地区小学校道徳教育研究協議会指定の学習指導研究発表会や市の新任教員研修会等をきっかけとし、「考え議論する道徳科」の授業へ焦点化した授業づくりを模索し、児童生徒が自分の考えを練り仲間と新たな考えを創り出す授業を実践しつつある。 ・地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」推進事業を実施し、企業の一員として課題解決へ向けて仲間と協議・提案をし、他者へ発信することで、自分たちの願いや思いは社会に届く、社会を変えられることを実感しはじめ、来年度は新たなステージへ向かう士気を高めている。								
達成度の説明・理由					評価			
・全学校での道徳科の授業公開に加え、道徳教育研究協議会指定の学習指導研究発表会、市の新任教員研修会等の実施により、教師の指導力を向上させることができた。また、児童生徒が意欲や目的意識をもって体験教育に取り組み、達成感や自己有用感を高めることができた。しかし、全国学力学習状況調査の質問紙の回答では、全国平均を大きく下回っている。よって達成度は「目標を下回る」とした。								
今後の課題								
・児童生徒が他者や自己との対話による「深い学び」となる道徳科の授業研究を推進する。 ・単なる「体験教育」ではなく、教職員や児童生徒も資質能力を意識した真の「体験学習」を充実させる。 ・次世代型人材（3C）育成の視点で、地域と協働しながら各校の特色ある取組を促進する。								
教育委員 評価コメント								
全国学力・学習状況調査の質問紙調査項目の【道徳の質問】と【地域や社会をよくするための質問】について、中学3年在全国平均よりかなり低い数字である。								

令和4年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	6	所属課	学校教育課					
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実							
基本施策	学ぶ喜びを知り、自ら学ぶ意欲と確かな力を育成します。							
取組項目								
体力・運動能力の改善や向上などによって、生涯を通して健康で安全な生活を送るために基礎を養い、「健やかな体」を育てます。								
取組内容								
・児童生徒の発達段階に応じた体力向上を図るために、「かさい体力向上プロジェクト事業」を実施する。 ・運動やスポーツの習慣化を目指し、体育の授業や体育的行事を通して運動の楽しさや健康の大切さを実感する教育活動を実施する。								
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	
全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実技調査 各種目の平均数値が全国平均を上回った種目数（種目） →目標：小・男女…16種目（男女各8種目）のうちの設定種目数 中・男女…18種目（男女各9種目）のうちの設定種目数 ※セル → 左：小学校、右：中学校	目 標	—	10 、 9	12 、 10	12 、 11	13 、 12	13 、 13	
	実 績	—	10 、 9	7 、 8				
	達成率	—	100% 100%	58% 80%				
【小学校】全国体力・運動能力、運動習慣等調査の質問紙調査項目 体育の授業が「楽しい」と肯定的な回答をした割合（％） →目標：全国平均 実績：加西市平均 ※セル → 左：男子、右：女子	目 標	—	94 、 89	94 、 89	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
	実 績	—	97 、 90	98 、 87				
	達成率	—	103% 101%	104% 98%				
【中学校】全国体力・運動能力、運動習慣等調査の質問紙調査項目 体育の授業が「楽しい」と肯定的な回答をした割合（％） →目標：全国平均 実績：加西市平均 ※セル → 左：男子、右：女子	目 標	—	90 、 83	90 、 83	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
	実 績	—	82 、 82	92 、 86				
	達成率	—	91% 99%	102% 104%				
主な取組の成果								
・教師が授業改善の視点で児童生徒の興味関心をひく授業を進めることで、体育の時間が「楽しい」と感じる児童生徒が増えている。 ・「体力アップひょうご」サポート事業を拡充し小学校3校で実施した。陸上競技や器械運動を中心に、児童の発達段階や到達度を踏まえた場の設定や指導手順を学び体験することで、児童は安心して技の習得に向かい、教師はより専門的な視点で指導技術を磨いた。 ・加西市内の全中学校に「部活動指導員」を配置し、より専門的な指導を受けることで質の高い練習を実現し、生徒の信頼感も増している。専門外の教職員の指導力育成にも寄与し、競技を通したネットワークが市外にも広く、練習試合を組みやすい利点もある。								
達成度の説明・理由					評価			
・全国体力・運動能力調査の結果は昨年度より低い実績となった。特に、小学校女子と中学校男子の結果が悪く、全国平均を下回る実技種目が多かった。（小学校女子全8種目のうち6種目▲・中学校男子全9種目のうち7種目▲）しかし、小学校、中学校ともに「体育の授業が楽しい」と答えている児童生徒が多いことは評価したい。よって、「ほぼ目標を達成した」としている。								
今後の課題								
・全国体力・運動能力調査の結果を踏まえ、市内の小中学校の体育担当者会で協議の時間をもち、現状の打開へ向けた方策を打ち出す。 ・「体力アップひょうご」サポート事業の取組を市内の小中学校へ広げ児童の運動能力の改善を図る。 ・学校行事や業間等、教育活動全体を通じて、体育やスポーツ活動を積極的に取り入れ、家庭・地域との連携のもと、運動習慣を定着させる。								
教育委員 評価コメント								
・中学校の体育の授業が楽しいと感じる生徒が増えている事に、大きな進歩がある。運動能力の結果に結びつかなくても成果があった。 ・各種目平均値の種目数の目標・実績の詳細を知りたい。部活動指導員は、未だ完全にとこの学校にも配置されていないと思う。廃部が増えているのか。								

令和4年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	7	所属課	教育総務課				
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実						
基本施策	学ぶ喜びを知り、自ら学ぶ意欲と確かな力を育成します。						
取組項目							
学校給食を通じた食育の推進などによって、生涯を通して健康で安全な生活を送るための基礎を養い、「健やかな体」を育てます。							
取組内容							
・アレルギー対応給食の充実を図り、安全性を確保する。 ・地産地消による市内産食材の使用量を拡大し、学校給食を軸とした食育の取組を推進する。 ・給食調理や食育をテーマとしたセミナー、研修講座を開催し、教職員、調理員、児童生徒、保護者の意識啓発に努める。							
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
アレルギーによる給食対応の除去品目、対応品目（品目数） 1（卵）→2（卵、乳製品） 卵を完全除去するとともに、児童生徒の対象者が多い乳製品の使用については代用品を使用することで、美味しく安全な給食を進める。	目 標	1	2	2	2	2	2
	実 績	1	2	2			
	達成率	100%	100%	100%			
市内産食材の使用率 1人当たりの年間消費重量（kg） 市内農家と学校給食をつなぐ食育を推進するため、市内産の食材の消費量を5年後に22kgをめざす。	目 標	17.1	18.0	20.0	21.0	21.5	22.0
	実 績	16.0	19.4	17.7			
	達成率	94%	108%	89%			
講習会、セミナー、研修会等のアンケート結果（%） 教職員や調理員、児童生徒、保護者を対象とした給食調理や食育に関する講演会、調理実習、体験学習等において、受講前の意識が改まったと答えた回答者の割合を8割とする。	目 標	—	—	80	80	80	80
	実 績	—	—	80			
	達成率	—	—	100%			
主な取組の成果							
・各校の食育担当者を中心に、給食の時間、全教科、全領域で食に関する知識や栄養、食習慣、食事マナーに関する食育指導を各校で実施した。また、全小中特別支援学校で食に関する体験活動を実施した。 ・栄養教諭が全小中特別支援学校へ赴き、小学校の全クラス及び中学校の2年生に対して栄養・食育指導を行った。 ・市農政課と連携し、トマト農家をはじめ、地元の農家や農業高校等に訪問し体験活動をするともに、農家や調理員に対して感謝の手紙を出すなど、食農体験の充実が進んだ。 ・辻調理師学校から講師を招き、SDG s を踏まえた食の在り方について講演会を開催した。 ・兵庫県学校給食・食育支援センターから講師を招き、調理師を対象に衛生管理研修を実施した。							
達成度の説明・理由					評価		
・市農政課と連携し、愛菜館や新規就農の農家へ働きかけ、新たな野菜の購入先を開拓した。 ・播磨東地区学校給食衛生管理推進研修会に162人、衛生管理講習会に36人が参加した。 ・学校給食従事者研修会では、食材の提供を受ける個人農家や愛菜館を訪問し、食材に対する知識の向上に役立てた。							
今後の課題							
・令和5年度からプラスチック製から紙製ストローに切り替えることにより、児童・生徒に身近な脱プラ・廃プラをはじめ、SDG s の取組を考えるきっかけとしたい。 ・地産地消を推進していき、地元産の野菜に限らず、それ以外の食材についても提供可能なものがあれば積極的に取り入れていく。 ・栄養教諭による栄養・食育指導の質をさらに高めていくとともに、学校給食を軸とした各学校の食育の取組を広げていく。							
教育委員 評価コメント							
・講習会、セミナー、研修会を通じ、情報共有ができていと思う。地産地消も順調に推進でき、増加していることは喜ばしい。来年度は給食メニューなどの発展を期待している。 ・R4年度は、R3年度よりなぜ市内産食材の使用率が下がったのか。気候による生産物の取れ高の影響なのか。							

令和4年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	8	所属課	教育総務課					
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実							
基本施策	児童生徒の成長を支える学びの場を充実します							
取組項目								
児童生徒が安心して学べる学校環境を整備し、地域の特性に応じた魅力ある学校づくりを推進します。								
取組内容								
・学校内の照明器具のLED化、トイレの洋式化を進め、良好な学習環境整備を図る。 ・加西市未来の学校構想の実現に向けて、市内小中学校の整備計画を推進する。								
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	
LED照明の更新数（基） 学習環境の改善を図るため、校舎・体育館に設置されている灯具を蛍光灯からLED灯具へ更新する。 総数15校 5,401箇所の更新を100%とする。	目 標	312	1,448	2,776	3,529	4,586	5,401	
	実 績	312	1,448	2,844				
	達成率	100%	100%	102%				
学校施設のトイレ洋式化（箇所） 屋外トイレ及び体育館、プールに設置されている和式トイレを洋式に改修する。 R 8までに総数15校、58箇所の更新を100%とする。	目 標	3	6	10	20	30	40	
	実 績	3	6	7				
	達成率	100%	100%	70%				
新設統合中学校の整備計画の進捗状況（%） 新設統合中学校を新設するための計画を策定する。 R 5 基本構想策定 100% R 6 基本設計策定 100% R 7 実施設計策定 100%	目 標	—	—	—	100	100	100	
	実 績	—	—	—				
	達成率	—	—	—				
主な取組の成果								
・市内小中学校の将来のあり方を有識者らで検討する「加西市未来の学校構想検討委員会」を計9回開催し、市長に答申した。 ・答申は小学校存続と中学校2校への方向性を定め、計3回のワークショップを開催し、広く市民から答申の意見を伺った。 ・新設統合中学校の整備に向けた今後のスケジュールについて関係部局と協議を行い、用地選定の協議を行った。 ・9小学校特別教室、4中学校職員室、多目的室、特別支援学校普通教室における照明器具の1,396基の灯具を更新し、完了箇所が2,844基となった。								
達成度の説明・理由					評価			
・当初の計画どおり、令和4年9月に検討委員会からの答申をまとめ、市長に報告できた。 ・LED照明更新は学校の夏休み期間を活用し、目標数以上安全に工事を完了できた。								
今後の課題								
・新中学校の整備スケジュール、それに伴う関係機関との協議、調整 ・地域住民や生徒の意見を反映した基本構想の策定、複合施設等の検討等 ・計画を前倒してLEDの更新やトイレの洋式化ができるよう設計や工事方法について見直しを行う。								
教育委員 評価コメント								
児童生徒が安心して学べる学習環境の整備が着実に進められており、計画をさらに前倒しして取り組もうとする姿勢も評価できる。新中学校については、生徒が安心して学べる施設であることはもちろん、地域が誇りに思える学校になるようしっかりと計画を進めてほしい。								

令和4年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	9	所属課	総合教育センター					
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実							
基本施策	児童生徒の成長を支える学びの場を充実します。							
取組項目								
「兵庫県教員資質向上指標」に基づいた研修や教職員のニーズに応じた講座、新しい教育を切り拓く講座を開設し、教職員としての資質能力の向上、研修の充実に努めます。 教育図書を拡充し、利用促進を図ります。								
取組内容								
・教職員のキャリアステージや専門分野に応じた講座、新しい教育に向けた講座(新学習指導要領・ICT利活用促進・STEAM教育等)、喫緊の課題解決に向けた講座(日常的OJTとしての教師力向上・不登校・発達支援等)を実施し、受講の促進を図る。 ・教職員の資質・能力の向上のため、新規購入希望図書調査による蔵書の拡充、年4回の移動図書館実施による利用促進を図る。								
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	
研修講座受講者のべ人数（人） 過去の実績をもとに、市内教職員約300人が一人平均3回以上受講することを目標設定	目 標	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	
	実 績	687	1,389	1,332				
	達成率	69%	139%	133%				
受講者を対象とした講座アンケートの評価点（点） （5点満点中受講者評価の平均点） 過去の実績と評価項目の見直しにより目標値を設定 ※R4より評価項目の見直しを行う	目 標	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	
	実 績	4.46	4.79	4.67				
	達成率	99%	106%	104%				
貸出冊数（冊） 過去の実績をもとに、市内教職員約300人へ、一人平均3冊の貸出を目標設定	目 標	800	900	1000	1000	1000	1000	
	実 績	777	962	918				
	達成率	97%	107%	92%				
主な取組の成果								
・喫緊の課題に対する講座を開設し、現場で実践を積み上げた講師を選定することにより、学校、教職員のニーズに応えることができた。 ・加西STEAM研修では、理論や概論から一歩踏み出し、外部指導者が1単元を通した提案授業を行う実践的な研修を行うことでより具体的なイメージを共有できた。 ・年間を通して教職員の希望図書を調査・購入することで、利用促進につなげることができた。								
達成度の説明・理由					評価			
教職員数が減少する中、学校や教職員が望み必要と考える研修講座内容や講師選定を行うことで、研修講座受講者のべ人数は目標値を大きく超えている。また、講座アンケート内容を、自身にとって有意義であったかを問うものに見直したため、評価が下がることも予想されたが、目標値を超えており、研修講座への満足度は高い。しかし、教職員の資質・能力の向上については、継続してさらなる向上に取り組む必要があると考えている。一方、センター図書の貸出冊数では、年間を通した希望図書購入を周知し、魅力ある蔵書になるよう努めたが、目標数には達しなかったため、総合的には「目標を達成」とした。								
今後の課題								
・市内16校の教育課程を考慮し、学校現場の運営や教職員の負担が大きくなりすぎない時期、時間帯、研修方法を十分検討した講座を開設する。 ・教科担当者会と連携した教科指導における授業改善・授業力向上に向けた研修を検討していく。								
教育委員 評価コメント								
講座受講者人数及びアンケート評価点が目標以上である為、達成度は2又は3の位置にあると思う。働き方改革に伴い研修が負担にならない様上手に調整してほしい。								

令和4年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	10	所属課	総合教育センター				
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実						
基本施策	児童生徒理解を基盤とした生徒指導体制を推進します。						
取組項目							
子どもの内面理解に基づく生徒指導を充実し、児童生徒一人一人の特性や状況に合った対応と支援を行います。							
取組内容							
・発達支援・不登校・いじめ等について、発達支援アドバイザー・スクールソーシャルワーカー・センター臨床心理士が教育相談（電話・面談・家庭訪問・メール等）を行う。 ・発達支援アドバイザー・スクールソーシャルワーカー等が、学校と情報共有し連携を行うため、校内会議に参加する。 ・不登校や発達に特性のある児童生徒に対して、個に応じた支援ができる場所や機会を整え、周知・提供する。							
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
支援のため発達支援アドバイザー・スクールソーシャルワーカー・センター臨床心理士が対応した教育相談件数（件） ※令和3年度よりスクールソーシャルワーカー1名増員 令和4年度よりカウンセリング日数追加 過去の実績を参考に、相談可能な最大件数を試算し設定 ※目標値については毎年見直しを行う。	目 標	1,600	1,800	2,700	2,700	2,700	2,700
	実 績	1,500	2,636	3,378			
	達成率	94%	146%	125%			
各校における不登校対策委員会、生徒指導委員会、教育支援委員会等で発達支援アドバイザーやスクールソーシャルワーカーが連携した会議数（回） 市内16校に発達アドバイザーが年間1回以上、スクールソーシャルワーカー2人が各学期1回参加を目標に設定 ※令和3年度よりスクールソーシャルワーカーを1名増員	目 標	60	100	105	110	115	115
	実 績	44	98	120			
	達成率	73%	98%	114%			
教育支援センター及び発達支援プログラムに登録した人数（人） 両事業の現在の相談員の人数で個に応じた指導・支援できる適正人数として目標設定 ※目標値については毎年見直しを行う。	目 標	40	40	40	40	40	40
	実 績	38	40	42			
	達成率	95%	100%	105%			
主な取組の成果							
・相談業務が周知され、相談体制の見直しもすすめたため、今まで相談につなぐことができなかった多くの児童生徒や保護者をつなぐことができた。 ・学校、関係機関との協力体制が構築され、発達支援アドバイザーやスクールソーシャルワーカーが各種会議で学校との連携を行うことが増えた。 ・教育支援センターや発達支援プログラムの希望者を受け入れ可能な最大数を受け入れるとともに、活動の見直しを行い、充実を図った。							
達成度の説明・理由					評価		
発達支援アドバイザーやスクールソーシャルワーカーの認知が広がり、学校や関係機関との連携がすすんだ。その結果、児童生徒や保護者を相談支援につなぐ件数が増加し、前年度を大きく上回る相談に対応できた。また、各校で開催される会議にも、発達支援アドバイザーやスクールソーシャルワーカーが参加する体制づくりがすすみ、昨年度以上に連携数が増えた。不登校や発達に特性のある児童生徒に教育支援センターや発達支援プログラムでの支援を通して、個々の課題の改善を行った。このように支援体制は整ってきているが、不登校は増加傾向にあることから、「ほぼ目標を達成」とした。							
今後の課題							
・令和5年度より校内フリースクール設置事業をすすめ、ふれあいホームと合わせて、不登校生への支援体制を整備する。 ・相談件数の増加に伴い、個々に対応できる時間の確保が難しくなっている。 ・資格やスキルのある相談員、支援員、心理士等の人材確保、人数確保が必要である。 ・目標値は大幅に達成しているが、不登校については増加傾向にあるため未然防止の取組が必要である。							
教育委員 評価コメント							
・R4年度が目標の数値を上回っているのに、R5年度は目標数値を変更するのか。 ・実績数が高くて達成したと思いたくない。人の心は数字には表せない。目標数はどこから出てくるのか。評価が謙虚だと思う。							

令和4年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	11	所属課	総合教育センター					
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実							
基本施策	小中連携教育を充実します。							
取組項目								
「加西市小中連携教育推進ガイドブック」に基づき、系統性のある指導を目指した連携を強化し、「中1ギャップ」の軽減を図ります。 地域全体で学校の運営や子どもの成長を支えていく「地域とともにある学校」を推進します。								
取組内容								
・「中1ギャップ」解消にむけ、小中学校教職員による情報共有や意見交換、合同研修を開催する。 ・小中連携の取組（中1ギャップ）に対する児童生徒へのアンケート調査・検証を行う。 ・学校と地域住民が連携した教育活動を推進する。								
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	
小中学校間の情報交換や合同研修会を年7回以上開催した中学校区数（校区） 4中学校区全てにおいて、推進委員会、合同研修会、情報交換会、体験活動等、計7回以上を目標設定	目 標	4	4	4	4	4	4	
	実 績	4	4	4				
	達成率	100%	100%	100%				
アンケート調査により、小中連携の取組が不安軽減につながったと回答した人数の割合（％） H29兵庫県調査の数値（81.7％）や過去の実績をもとに、目標として設定	目 標	95	95	90	90	90	90	
	実 績	92	89	87				
	達成率	97%	94%	97%				
ゲストティーチャーの延べ人数（人） 地域とともにある学校の実現に向け、過去の実績値より目標設定（R3 S T E A M教育開始、R5 学校運営協議会導入のため目標値をさらに高く設定）	目 標	410	850	850	900	900	900	
	実 績	515	672	720				
	達成率	126%	79%	85%				
主な取組の成果								
・コロナ禍においても、各中学校区毎で小中学校の教員が集まり、対面で計画や振り返りを話し合う機会をもち、取組の検証が行えた。 ・小中連携の継続した取組が、小中間の教職員の情報共有・意識共有・指導観共有につなげる機会となった。 ・各校区で工夫された小中交流会や体験入学は、小6児童の進学に対する不安軽減と憧れにつながる一定の成果となった。 ・地域のゲストティーチャーを招聘することにより、学校だけではできない多種多様な学習や体験を児童生徒に提供できた。								
達成度の説明・理由					評価			
・コロナ禍における取組活動の制限がある中、各校がコロナ対策を講じながら、できる限り計画通り取り組んだことや、小中教職員による合同研修会での様々な分野における9年間の系統性について協議したことから、児童生徒理解や教師力向上につながっており、「ほぼ目標を達成」とした。								
今後の課題								
・体験入学などの工夫された取組により、中学校進学への不安は軽減されているが、進学後の不登校数は増加しているため、検証を行い、小中教員で効果的な取組を模索する。 ・9年間を見通した指導を発展させるため、系統性を小中教員間でさらに確認・共有する必要がある。 ・学校運営協議会を設置することで、新たなゲストティーチャーの発掘や効果的な活動につなげる。								
教育委員 評価コメント								
・アンケート調査による小中連携の取組が不安軽減につながったと回答した人数の割合が下がってきているのに、不安は軽減されていると言えるのか。 ・小中連携に関して、講座が充実しているので、これからも継続してレベル向上に期待したい。R5よりコミュニティスクールがスタートするため、小・中・地域・家庭が連携するため、コミュニティスクールの情報を収集し、いろいろと体験してほしい。								

令和4年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	12	所属課	生涯学習課					
基本方針	生涯にわたる学習の充実							
基本施策	生涯にわたって学び、楽しめる環境づくりを推進します。							
取組項目								
「人生100年時代」を念頭に、公民館主催講座やかしの木学園などで、多岐に渡ったテーマの講座を開催します。								
取組内容								
・市民のニーズを的確に把握し、それぞれの年代に応じた学習機会を提供する。 ・地域の生涯学習や仲間づくりの拠点である公民館の施設・設備を計画的に整備する。 ・様々な媒体を利用し、生涯学習情報の発信を行う。								
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	
公民館主催講座等受講者の満足度調査(5段階評価点) 各館の主催講座等の受講者に講座についての満足度調査を実施し、時代や市民のニーズに合った学習機会の提供が出来ているのか検証する。(点)	目 標	—	—	3.2	3.2	3.5	3.5	
	実 績	—	—	4.4				
	達成率	—	—	138%				
公民館ブログ (HP) の更新数(回) 各館で開催案内(受講者募集)、主催講座等公民館の活動紹介でブログを活用している。ブログの更新回数を月2回以上に設定し、情報発信に取り組む。	目 標	—	80	90	92	95	100	
	実 績	—	86	78				
	達成率	—	108%	87%				
公民館ホームページの平均閲覧数(回/月) 公民館ブログの更新や主催講座等のPRを行うことにより公民館の活動を知ってもらい、来館のきっかけにしたいため、ホームページの閲覧数を目標として設定した。	目 標	—	4,100	4,200	4,300	4,400	4,500	
	実 績	—	4,089	5,393				
	達成率	—	100%	128%				
主な取組の成果								
・主催講座として健康、運動、料理、伝統文化、歴史、国際交流、環境など多岐にわたる連続講座を32講座開催した。 ・夏休み子供向け講座や次年度開催に繋げるための講座を7講座11回開催した。 ・シニアカレッジ「かしの木学園」は趣向をこらした講座を各館9回と合同の特別学習会を1回開催した。 ・公民館ブログとして主催講座等の活動内容や登録グループを紹介した。 ・南部、善防公民館及びオークタウン加西の体育館照明LED化や修繕を行い、快適な利用環境を整備した。								
達成度の説明・理由					評価			
・主催講座、かしの木学園受講生にアンケート調査を実施、満足度は目標を大きく上回った。 ・ブログの更新数は前年度を下回り目標に届かなかった。次年度の課題とする。 ・HPの閲覧数は、目標を大きく上回っており、月ごとでも大きな差はなく安定して閲覧されている。								
今後の課題								
・STEAMラボが整備された3館を中心に他の公民館や学校とも連携した講座等を開催する。 ・公民館・オークタウン加西のあり方検討委員会の意見を踏まえ、幅広い世代の市民が、いつでも利用できる施設運営と講座開催を推進する。 ・公民館ブログの更新や市公式LINE等を活用して公民館活動のPRを推進する。								
教育委員 評価コメント								
公民館やオークタウン加西が生涯学習や仲間づくりの拠点となるよう、市民や時代のニーズに合った講座を開催し、満足度も高いことは十分評価できる。また、夏休みに子ども向けの講座を開催するなど、すべての世代を対象に学習の機会を提供されていることも素晴らしい。								

令和4年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	13	所属課	生涯学習課					
基本方針	生涯にわたる学習の充実							
基本施策	生涯にわたって学び、楽しめる環境づくりを推進します。							
取組項目								
「公民館まちづくり出前講座」を推進し、学習成果を発表できる場、学んだことを地域に還元する場となるようコーディネートに努めます。								
取組内容								
・出前講座の参画グループ、活動者数を拡大する。 ・公民館登録グループ、社会教育団体の主体的な活動を支援する。								
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	
出前講座実施グループ数（団体数） 活動内容や学習内容を地域に還元することが公民館活動の目的の一つとなっている。出前講座の実施状況を見ることで、地域からの申込状況がわかり、事業の浸透度を図ることができるため、目標として設定した。	目 標	30	15	20	25	30	35	
	実 績	11	12	13				
	達成率	37%	80%	65%				
出前講座活動者数（人） 登録グループの高齢化が進んでおり、出前講座など活動内容や学習内容を披露する機会を増やすことにより、グループへの参加者や新規登録グループを増やすため、目標として設定した。	目 標	250	250	300	350	400	450	
	実 績	199	153	204				
	達成率	80%	61%	68%				
出前講座開催回数（回） 活動内容や学習内容を地域に還元することが公民館活動の目的の一つとなっている。1番目の指標では出前講座を実施しているグループ数を挙げているが、本指標で実際に前出講座が開催されている回数を見ることで、地域での生涯学習の推進状況を見ることもできることから、目標として設定した。	目 標	－	－	25	30	35	40	
	実 績	19	16	22				
	達成率	－	－	88%				
主な取組の成果								
・各種イベントや敬老会で出前講座を実施し、学習成果を発表した。 ・主催講座や登録グループについて掲載した公民館への誘いを市内全戸に配布し、登録グループや出前講座を紹介した。 ・ホームページで登録グループの概要や活動内容を紹介した。 ・公民館まつりで活動状況を披露したり、報告したりした。 ・5年以上にわたり実際に活動している登録グループに対して合同学習発表会で感謝状を贈呈した。								
達成度の説明・理由					評価			
・新型コロナで減少していた各種イベントや敬老会などの開催は少しずつ戻ってきているが、出前講座の要望はまだ回復していない。 上記の理由により、実績が目標を下回ったため、達成度は「目標を下回る」とした。								
今後の課題								
・主催講座から登録グループ化を進める。 ・ホームページや公民館だよりなどで登録グループの活動、メンバー募集、出前講座のPRを行う。 ・自治会、シニアクラブ、学童等、過去に利用の多かった団体に出前講座のPRを行うとともに、新規開拓も行い、出前講座の利用を促進する。								
教育委員 評価コメント								
R4年度はコロナ禍で休演していた公民館まつりも再開し、披露する機会が増やせた事で、次年度に向けて新規参加者の増加を期待したい。評価が目標を下回るとされているが、仕方がない事だと思う。								

令和4年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	14	所属課	生涯学習課				
基本方針	生涯にわたる学習の充実						
基本施策	「楽しみながら、活かす、歴史文化遺産」を推進します。						
取組項目	歴史文化遺産を活かした地域の活動への支援を拡充します。						
取組内容	・「歴史文化を活かしたまちづくり活動補助事業」制度の活用件数の増加を図り、歴史文化遺産を継承する地域の活動を支援する。 ・市内文化財のデジタルアーカイブ化や、埋蔵文化財整理室・その他の施設での展覧会を実施する。 ・歴史文化遺産の積極的な公開活用を実施し、市域の歴史文化遺産の魅力を広く発信する。						
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
地域団体等による歴史文化遺産を活用した活動の支援（件） 補助事業の充足率を測るため、支援件数を目標として設定した。	目 標	－	10	17	20	20	20
	実 績	－	17	19			
	達成率	－	170%	112%			
・歴史資料等の公開、活用の回数（件） ※市主催事業件数（共催事業除く） 展示や講座開催を通じて、市民が歴史文化遺産に興味を持つことができる機会を設けることを目標とした。	目 標	－	2	4	4	5	5
	実 績	－	4	6			
	達成率	－	200%	150%			
歴史文化関連ブログ（HP）の閲覧数（回/年） 市域の歴史文化遺産を含む歴史文化に関心と愛着を持ってもらうため、HPを活用し情報発信に取り組む。HPの閲覧数を目標として設定した。	目 標	－	－	800	810	820	830
	実 績	616	759	1,038			
	達成率	－	－	130%			
主な取組の成果	・歴史文化を活かしたまちづくり活動補助事業として19件支援した（うち活用事業11件、美化事業8件）。全申請のうち7割強が新たな団体からの申請となり、補助事業制度の周知を図ることができた。 ・歴史資料の公開の回数を増やし郷土の歴史文化遺産への関心を育む機会を設けた。今年度は児童生徒を対象にした遺跡見学等も行い、幅広い世代に対して歴史文化遺産に触れる機会を設けることができた。 ・歴史文化関連ブログの閲覧数が目標を超え、文化財のページ（主に指定文化財）に関心を持つ人が増加した。						
達成度の説明・理由	評価						
・補助事業制度の周知により、新たな団体からの申請が増え、指定・未指定に関わらず地域の伝統や地域の文化財を守り活用する団体の支援ができた。歴史資料の公開・活用では、内容を工夫し取り組んだ。主催以外でも公民館等からの要望も増え、出前講座も積極的に実施した。達成度は「目標を超えて達成」とした。							
今後の課題							
・補助活動による効果をわかりやすく助言し、市民が活用しやすく、継続的な活動になるよう支援していく。 ・減少傾向の埋蔵文化財整理室への来室数と、収蔵している歴史資料の活用を促進する取組が必要である。 ・前年度までの閲覧数の推移から目標を設定した。前年と比較しHPの閲覧数が増加し関心の高さがうかがえるため、更新数の増とともに内容を楽しく地域の歴史を知ることができるものに充実させていく必要がある。							
教育委員 評価コメント	・R4年度は、中富町の中富条里遺跡の集落跡の発見があったので一時的な数字の増加か。 ・HP閲覧数の目標はどのように出すのか。よく頑張っておられると思う。						

令和4年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	15	所属課	図書館				
基本方針	生涯にわたる学習の充実						
基本施策	市立図書館の資料及びサービスの充実と情報化を推進します。						
取組項目							
市立図書館と学校図書館とが連携し、子ども達の読書への関心を高め、読書活動の推進を図ります。 こども園や学校への図書託送サービスや図書相談を行い、それぞれの読書環境を整えるお手伝いをします。							
取組内容							
・こども園や学校からの図書館見学の受け入れ、こども園や学校に出向いてのおはなし会やブックトークを実施する。 ・こども園や小・中・特別支援学校からの依頼による図書の団体託送サービス及び公立こども園・中学校への定期的な本の巡回貸出を実施する。 ・学校図書館の整理に関する相談や本の廃棄作業の支援をする。 ・スマート図書館ネットワークシステムの導入により、小・中・特別支援学校と協力し、学校図書館の機能向上や活性化を図る。							
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
小・中学校へのブックトーク、おはなし会等の出前講座（回） 小・中学校との連携度合いを測るため目標として設定した。	目 標	16	10	17	18	19	20
	実 績	4	16	18			
	達成率	25%	160%	106%			
公立こども園、小・中・特別支援学校への図書の団体貸出託送サービス（冊） 公立こども園、小・中・特別支援学校との連携度合いを測るため目標として設定した。さらに利活用状況も把握した。 (R4年度は、学校図書館の電算化により学校図書が利用できない期間があり、図書館の本の利用が見込まれるため貸出冊数の目標数値を高くしている。)	目 標	2,500	2,600	4,000	2,900	3,000	3,100
	実 績	2,737	2,873	7,931			
	達成率	109%	111%	198%			
学校図書館の整理に関する相談や本の廃棄作業（延べ学校数） 小・中・特別支援学校との連携度合いを測るため目標として設定した。 (R4年度は、学校図書館の電算化により学校からの相談が増加すると見込まれるため、目標数値を高くしている。)	目 標	3	2	8	4	5	5
	実 績	3	4	9			
	達成率	100%	200%	113%			
主な取組の成果							
・ブックトーク・おはなし会について、学校からの依頼がコロナ以前の状態に戻ってきた。しかし、依頼回数は学校により差があった。 ・令和4年度は、学校図書館の電算化のため、学校図書が利用できない期間があったため、市内小・中・特別支援学校全てから貸出依頼があった。 ・学校図書館に関する相談についても、学校図書館電算化のため、本の整理に関する相談が多くあった。							
達成度の説明・理由					評価		
・令和4年度は学校図書館電算化のため、各指標の目標値を高く設定していたが、それを上回る数値となった。							
今後の課題							
各学校に学校図書館システムを導入したことで、図書館から学校への本の貸出しや、本の整理に関する相談が、よりスムーズにきめ細やかにできると思われる。 また、学校図書館を利用する児童生徒が増え、学校図書館が活性化するように図書館も学校を支援したい。							
教育委員 評価コメント							
目標値の達成度がかなりあるので、評価したい。R5からスマート図書館がスタートし、これを基に電子（IT）を通じ、学校・公民館など連携し、情報を得ながら広めていってほしい。							

令和4年度分 教育委員会点検評価シート

番 号	16	所属課	図書館				
基本方針	生涯にわたる学習の充実						
基本施策	市立図書館の資料及びサービスの充実と情報化を推進します。						
取組項目							
図書資料及びサービスの充実を図り、幼児から大人までの多様な世代に向けた読書喚起への取組に努めます。 電子図書館システムを導入し、ICTを活用した電子図書利用サービスを開始します。 県内の公共図書館と連携し、蔵書の相互貸借を実施します。							
取組内容							
・図書資料を充実し、魅力あるイベントを開催することにより来館者数の増を図る。 ・スマート図書館ネットワークシステムの導入により、図書館に来館できない住民に対して電子書籍による非来館者サービスを提供する。また、利用者にとってより便利な図書館となるよう機能強化を図る。 ・県内の公共図書館より図書の貸出依頼があれば、県立図書館を通じて貸出を実施する。また反対に当図書館が貸出依頼をし、県立図書館を通じて借り受ける。							
指標名、指標説明、目標値の設定理由、目標値の単位	区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
年間図書館来館者数（人）。 館内の賑わいを測ることで、多様な世代への読書喚起への取り組み度合いを測るため目標として設定した。	目 標	250,000	210,900	213,200	215,400	217,700	220,000
	実 績	153,107	174,871	176,447			
	達成率	61%	83%	83%			
図書館サービス利用者数：図書資料の貸出、視聴覚資料の視聴、イベント等のサービスを利用した合計人数（人）。 図書資料及びサービスの充実度合いを測るため目標として設定した。	目 標	100,000	100,000	100,500	101,000	101,500	102,000
	実 績	79,399	98,145	93,955			
	達成率	79%	98%	93%			
	目 標						
	実 績						
	達成率						
主な取組の成果							
・年間来館者数については、小規模なイベントを数多く実施したり、人気絵本作家を招いてのイベントを実施することで、来館者数増を目指した。 ・LINE連携やスマート登録サービスを開始し、図書館をより便利に簡単に利用できるようになった。 ・映画会については、新型コロナウイルスの状況を勘案し、段階的に募集人数の増を図った。 ・多方面に渡る図書資料を購入し、貸出数の増加を目指した。							
達成度の説明・理由					評価		
令和３年度と比較して、図書館来館者数は少し増加したが、図書館サービス利用者数は減少してしまった。 どちらの指標も目標値には達することができなかったため、達成度は「目標を下回る」とした。							
今後の課題							
・新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付け変更に伴い、基本的な感染対策については、個人や事業者の判断に委ねられることになったが、コロナ感染を心配する利用者も一定数存在する。電子図書館サービスの普及・啓発に努めることで、そういった方にも図書館を利用してもらえるよう工夫する。 ・少子化の影響もあり、児童書・絵本の貸出数が減少している。学校・園と連携することで、子ども達に本をより身近に感じてもらい、図書館利用に繋げたい。							
教育委員 評価コメント							
新型コロナの影響による来館者数や資料貸出数の減少はある程度しかたがないと思われる。コロナの状況が改善し来館者や貸出数が増加することを期待する。また、コロナ禍において、電子図書システムのサービスを開始されたのは大いに評価できるが、まだ知らない市民も多く、広報・周知に努めて欲しい。							

別表 1 市内産食材の使用状況の推移 (番号7)

食材	納入者	H30年度	R元年度	R 2 年度	R 3 年度	R4年度
米	県体育協会	47,807	44,368	42,921	45,902	42,495
野菜	愛菜館	8,559	9,810	8,601	13,590	10,006
野菜	播磨農高	73	53	146	1,089	1,532
果物・野菜	神戸大学	203	179	287	1,218	677
里芋	元源	107	87	39	562	865
かぼちゃ	加西ブランド協会		137	224	161	117
トマトピューレ	JA兵庫みらい		49	158	178	317
味噌・青大豆	富田まちづくり協議会	1,924	637	0	42	0
大葉	亀尾農園				3	1
ハリマ王ニンニク	北本ファーム					88
なす・ピーマン	よしよし畑					236
玉ねぎ	みっちゃまfarm					148
ほうれん草	松森俊二					9
合計		58,673	55,319	52,376	62,745	56,491
配食人数(人)		3,304	3,274	3,279	3,226	3,199
1人当・年間消費重量(kg/人)		17.8	16.9	16.0	19.4	17.7

教育委員からの質疑と回答

番号	質問	回答	担当課
2	保育料無料化、給食費無料化等により、子育て支援が充実して来て、素晴らしいと思う。評価は高いと思う。それに伴う保育士数が確保出来ていない事がマイナス点である。昨年も教授との直接交渉を課題とされているが、その結果どのようなものを得たのか。	教授との直接交渉で学生のリアルな希望等を伺うことができ、そこから定着支援一時金等の補助金創設を行ったことにより、僅かではあるが民間への問い合わせや学生の新規採用につながった。	こども未来課
6	各種目平均値の種目数の目標・実績の詳細を知りたい。部活動指導員は、未だ完全にどの学校にも配置されていないと思う。廃部が増えているのか。	・小学女子で全国平均を下回っているのは、握力・上体起こし・長座体前屈・50m走・立ち幅跳び・ソフトボール投げの6種目で、上回ったのは反復横跳びと20mシャトルランのみであった。中学男子は、握力・上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・50m走・立ち幅跳び・ハンドボール投げの7種目で、上回ったのは持久走と20mシャトルランのみであった。 ・部活動指導員は、6月20日現在、各校1～2名の計7名を配置している。廃部となった部は、令和元年以降増えていない。	学校教育課
7	R4年度は、R3年度よりなぜ市内産食材の使用率が下がったのか。気候による生産物の取れ高の影響なのか。	米以外の市内産食材の使用率の減少は天候不順による影響によるものである。	教育総務課
10	R4年度が目標の数値を上回っているのに、R5年度は目標数値を変更するのか。	学校現場の状況、家庭や社会の状況、総合教育センターの体制等、刻々と状況は変化している。R4年度の状況を総合的に振り返り、成果と課題を整理した上で、R5年度の目標数値を検討する必要があると考えている。	総合教育センター
11	アンケート調査による小中連携の取組が不安軽減につながったと回答した人数の割合が下がってきているのに、不安は軽減されていると言えるのか。	小中連携の取組後、アンケートを実施した結果、R2の中1は92%、R3の中1は89%、R4の中1は87%が不安軽減に繋がっている。これは県等の他の結果から見ても非常に高く、全体の傾向として、不安は軽減されていると言える十分な割合である。経年比較をすると、割合が下がっている。その要因は、該当学年の雰囲気や特性等、様々な要因が絡んでいるが、特にR2からR4は、コロナ禍での全体的な不安、制限された活動による人間関係の不安や学習の不安、コロナによる小中連携の取組の中止等により、不安が軽減しにくかったと考えられる。ただ、取組で不安が軽減したかは経年比較ではなく、同じ児童生徒の変化を見るものである。	総合教育センター
14	・HP閲覧数の目標はどのように出すのか。 ・R4年度は、中富町の中富条里遺跡の集落跡の発見があったので一時的な数字の増加か。	・文化財係の3つのページ(埋蔵文化財整理室、指定文化財、指定文化財一覧)の閲覧数の年間平均数と過去3年間の推移から決めている。 ・閲覧数の増加は、ご質問のとおり、久しぶりに現地説明会を伴う発掘調査があったことも一因と考えている。また、昨年度は住吉神社の重文指定等新たな指定や追加があったことも要因と考えている。	生涯学習課

総合コメント

評価委員会 堀内委員の評価	概ね妥当
前年度までに比べると令和４年度はコロナ禍による影響は少なくなり、計画された事務・事業が着実に進められ、全体を通じて多くの項目について達成度2以上を実現しており、一定の成果を挙げていることが確認できましたので概ね妥当であると考えます。このことにかかわり、「郷土を愛し 豊かに未来を拓く 人づくり」の基本理念の下で、学校園・家庭・地域社会が一体となり、市民全てがかかわる教育を推進された教育委員会及び関係の皆様の御尽力に敬意を表したいと思ひます。 なお、①評価における達成度基準が目標を下回った取組項目や②昨年度より評価が下がった取組項目、③体力・運動能力などの調査結果が全国平均を下回るなどコロナ禍による影響が経年で表れてきていると考えられるもの、にしましては今後の改善に向けた取り組みが特に重要であると考えております。 また、今後も基本理念の下、「第３期加西市教育振興基本計画」の着実な推進が引き続き求められます。毎年度全ての「基本方針」及び「基本施策」に対応する取組項目について網羅的に点検・評価を行うことは困難が想定されますので、令和７年度までの計画の期間全体を通じて、点検・評価に漏れが生じないよう評価対象とする取組項目を柔軟に設定するなどして、今後の効果的な教育行政の推進につなげていただくとともに、市民に対する説明責任を果たしていただきたいと思います。	

評価委員会 澤山委員の評価	概ね妥当
各施策の点検評価シートについて、自己評価に留まらず、教育委員からの評価コメント欄や質疑応答の枠を設けられている点が、多様な観点からの評価を確保する上で有効な取り組みになっているように思われます。些末な点ではございますが、下記を今後のご参考にしていただけたら幸いです。 ○取組内容や指標がそれぞれ複数挙げられている項目について、取組内容と指標の対応関係が必ずしも明確でないものもあるように思いますので、対応関係がわかるように記述いただけるとより良いように思います。 ○３×４のマトリクス形式で示されている評価欄について、表紙裏の凡例を参照しなくとも、各評価シート単体で難易度・達成度の評価結果が読み取れるように、表示形式を見直していただけるとより良いように思います。 ○ほとんど全ての取組項目について３つの指標が挙げられていますが、紙面の都合上、代表的なもののみを挙げられているようでしたら、そのことがわかるような表記（例えば、「主な指標」などの表記）にしていただけるとより良いように思います。 ○「主な取組の成果」の欄に、「周知に努めた」「検討を重ねた」のように、教育委員会の取組と見られる内容を挙げられている項目が見られますが、これらは取組の成果というよりも、取組内容として挙げられるべきもののように思われます。取組の成果としては、取組の結果、市民がどのように変化したのかといった、当初定義された問題事象の変化に焦点を当てた記述をしていただけるとより良いように思われます。 ○関連して、各取組項目はどのような問題事象に対応するために設定されたのかが各評価シート上でわかるように、冒頭で簡潔にターゲットとする問題の定義を述べていただけるとより良いように思われます。	

※評価委員会の評価については、「妥当」「概ね妥当」「やや不適」「不適」の４段階評価とする。

教育委員会評価委員会

教育委員会の点検評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する方の知見や、客観性を確保することが可能となる方の意見をいただき、効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たすことを趣旨としており、次の方々に評価委員をお願いしました。

評価委員会委員	
所 属	氏 名
兵庫教育大学大学院 教授	堀内 昭彦
兵庫教育大学 准教授	澤山 郁夫